令和4年度第1回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和4年6月9日（木） 10：00～11：57

場 所 事務局第一会議室及び Zoom 併用

出席者 [会議室] 坂井学長、黒川理事、柳澤理事、松田理事、中村理事、市川理事、
小安委員、利根委員、萩原委員、平本委員、真下委員、山名委員

欠席者 佐々木委員、砂川委員

陪席者 [会議室] 山中監事、齋藤監事、川又副学長

[Zoom] 市橋副学長、田代副学長、川合副学長、木崎副学長

井口人文社会科学部研究科長、野中教養学部長、井原経済学部長、堀田教育学部長、
石井理工学研究科長、長澤理学部長、重原工学部長

- 議事に先立ち、新体制となったことに伴い、出席委員及び陪席者の紹介があった。また、学長から、佐々木委員及び砂川委員が本会議を欠席する旨報告があった。
- 経営協議会の任務等について
学長から、資料1に基づき、経営協議会の構成や任務等について説明があった。
- 令和3年度第5回議事要録の確認について（資料2）
令和3年度第5回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、承認された。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

- 審議事項
 - 1 学長選考・監察会議委員選任方針について
学長から、資料3に基づき、経営協議会及び教育研究評議会から選出する学長選考・監察会議委員の選任方針について説明があり、審議の結果、承認された。
 - 2 学長選考・監察会議委員の選出について
学長から、資料4に基づき、学長選考・監察会議の概要及び委員の選出について説明があり、審議の結果、学長選考・監察会議委員として、小安委員、佐々木委員、利根委員、平本委員及び山名委員を選出すること、また、選出母体である経営協議会があらかじめ指名した者については、一位砂川委員、二位萩原委員、三位真下委員とすることが承認された。
 - 3 国立大学法人埼玉大学教職員給与規則の一部改正について
松田理事から、資料5に基づき、文部科学省が実施する「国立大学附属幼稚園教育

体制支援事業」により、附属幼稚園に勤務する教諭等の処遇改善を行うため、附属幼稚園教員特別手当を新設する旨説明があり、審議の結果、承認された。

4 令和3事業年度決算について

松田理事から、資料6に基づき、令和3事業年度決算の概要について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 新型コロナウイルス関連で様々な対応を実施したと思われるが、決算に大きな影響は無かったという認識で良いか。

△ オンライン授業のためのインフラ整備等により支出が多くなったという面はあるが、コロナ禍や半導体不足等の影響から機器が年度内に納品されないという事案も発生し、結果的に年度末時点では現金が支払われずに残ってしまっている。

☆ 損益計算書における当期総利益は676百万円で、対前年度増減額は567百万円の大幅な増となっているが、こういった要因なのか。また、これらもコロナ禍等との関係性はないのか。

△ 国立大学の特殊な会計ルールによるもので、国等から受け取った予算を最初に債務として計上し、決算時に使用しなかった分を利益として一時的に計上することとなっているため、この当期総利益の大幅な増加は世間一般的な利益や儲けとは異なるものである。

☆ 受託研究費等の費用と収益に僅かな差があるが、こういった要因なのか。

△ 外部資金で購入した図書等は費用には計上せず、決算時に収益にのみ計上されるという特殊な会計処理が行われるため、差が生じるものである。

5 令和5年度概算要求について

松田理事から、資料7に基づき、令和5年度概算要求における教育研究組織改革及び施設整備事業の概要について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ カーボンニュートラル化への取組について、学生はどのように関わってくるのか説明願いたい。また、環境系のNPOと連携して推進していくことも検討して欲しい。次の科学教育推進センター（仮称）の設置については、子供達へのSTEAM教育等を推進することが全体的な目標だと思われるが、学術振興会の事業である「ひらめき☆ときめきサイエンス」に長年関わってきた経験として、大学の教育を見せることは小学校・中学校・高校の児童・生徒に刺激を与え、進路にも影響を与えているとともに、特に女子生徒に対する刺激が強く、ジェンダー・バイアスにも好影響を与えることも分かってきている。さらに、大学院生が児童・生徒に自分たちの研究内容を説明する機会を持つことが、大学院生本人にとっての学びにも繋がっている。児童・生徒は大学院生や先生が楽しそうに研究していることを見て、研究や学びの楽しさを実感したという感想も多くあり、大学での研究を外向けに開いていくことにより、埼玉大学

の志願者の増加や全体のレベルアップにも繋がるのではないかとと思われるため、重点的に進めて欲しい。

△ カーボンニュートラル化への取組に学生を関わらせていきたいと考えており、教養教育として関連した短い授業を開くことも検討している。この取組は地域のネットワークとして実施しないと意味が無いため、さいたま市との連携だけでなく、地域のNPO等との連携も含めて推進していきたい。

△ 児童・生徒向けの研究室公開などは従来から実施している。今までは理学部及び工学部を中心に男女関係無く取り組んでいたが、今年度4月に設置されたダイバーシティ推進センターでは女子の理工系人材育成を視野に入れて活動を始めているので、連携して取り組んでいきたい。

☆ 現場の教員や保護者のマインドセットが科学教育の推進におけるボトルネックとなっている。データサイエンス系の職業に進みたいという高校生が多くいるという民間の調査結果も出ているが、中学校・高校の教員自身が指導するための情報を持っていない。科学に強い中学校・高校教員の養成ということに加えて、既存の教員の学び直しの視点も含めて仕組み作りをして欲しい。

△ 埼玉大学のプレゼンスを上げるという意味でも、地域の行政機関や団体とどのように結びついていくのかが今後の課題と考えている。地域を一つのターゲットとした取組をセンター化することによって、より一層推進していくことを目指している。

☆ 理化学研究所では各キャンパスで一般公開を行っており、地域住民や学校などから多数の参加がある。親子連れでの研究室見学には特に影響力を感じているほか、ダイバーシティ推進の一環として女子中高生の参加者を積極的に募集するなどの取組も実施している。プレゼンスを上げるためにも、こういった取組を是非推進して欲しい。

△ 研究室見学は学園祭と合わせて実施するなど、様々な機会で行っている。また、科学技術振興機構（JST）の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択されており、そちらでもダイバーシティ推進の取組を進めているところである。

☆ ステークホルダーエンゲージメントの件はかなり大きな問題で、社会変革に合わせて大学自体を変えていこうということが一つのベースになり、色々な人が参加することになると思われる。骨格を捉えて進めていかないと、バラバラと活動しているだけで結果的に何も変わっていかない、ということに陥りやすいので注意して欲しい。

6 中期目標の達成状況報告書（第3期中期目標期間終了時）について

川又副学長から、資料8に基づき、第3期中期目標期間終了時における中期目標の達成状況報告書について説明があり、審議の結果、一部資料の誤謬を修正の上、承認された。

7 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について

川又副学長から、資料9に基づき、第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 戦略的研究領域は6件を採択とのことだが、記載されている7件のうち一つは既存のものという認識で良いか。

△ 以前からのものが期間終了したことを受けて6件を新規採択したが、東アジアSD研究領域のみ開始時期が異なるため、現在も実施期間中となっている。

8 第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標について

川又副学長から、資料10に基づき、第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の提出案について説明があり、審議の結果、承認された。

(小安委員が途中退席)

○ 報告事項

1 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる令和3年度適合状況等の報告及び国立大学法人ガバナンス・コードの改訂について

学長から、資料11に基づき、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる令和3年度における本学の適合状況等と、令和4年4月1日付けで改訂された国立大学法人ガバナンス・コードの概要について説明があった。また、令和4年度における報告書作成・公表に係る作業スケジュールについての説明があり、各委員には事前意見照会等に協力願いたい旨の依頼があった。

2 埼玉大学キャンパスマスタープラン2022について

学長から、資料12に基づき、第4期中期目標・中期計画期間の6年間における施設整備計画等をまとめた埼玉大学キャンパスマスタープラン2022の概要について説明があった。

3 外部資金の受入状況について

黒川理事から、資料13に基づき、令和3年度における受託研究、共同研究及び奨学寄附金の受入状況と、令和4年度科研費の採択状況について説明があった。

☆ 大学として科研費を獲得することは重要だが、教員は忙しくてフィールドワークにも行けない、といったこともよくあると思われる。また、大型の科研費獲得に関する私立大学での取組の例として、学内で科研費とほぼ同じ申請書を書かせて、まず学内で基盤的に研究を実施した後で正式に科研費に応募する、といった段階を踏んでいく仕組みを取り入れているところもある。埼玉大学でも科研費獲得のために何か仕組みはあるのか。ここ数年で審査制度も大きく変わってきているので、そういった

ことも含めて対応して行って欲しい。

△ 今のところそこまでしっかりした仕組みは無いが、URA オフィスでの申請書チェックや、採択経験の多い退職教員等によるアドバイザー制度等により、科研費の申請サポートを行っているところである。

△ 研究を活性化するための施策をパッケージ化して示していきたいと考えている。また、以前には時間回復プロジェクトとして、会議等の数を大きく減らして教員の研究時間確保を図るという取組を実施したことがあるが、これに類するものも検討していきたい。

4 令和3事業年度長期借入金償還状況について

松田理事から、資料14に基づき、令和3事業年度における長期借入金償還状況について説明があった。

○ その他

1 オンライン授業等への対応状況について

埼玉大学におけるオンライン授業等への対応状況について、下記のとおり意見交換を行った。

☆ 今年度は対面授業が行われるようになったことや、卒業式・入学式・入学生歓迎式を行ったことなどについての報告や新聞報道等を受け、非常に安堵している。その他にも学生への食品配布の支援などにより、学生の学びに対するモチベーションの創出に尽力していることを嬉しく思う。また、文部科学省が規制緩和により、オンライン授業の上限割合を緩める方向で検討しているという報道があるが、埼玉大学ではどのように考えているのか。

△ 今後の政府方針に合わせて対応していくこととなるが、埼玉大学における全体の方向性としては、オンラインと対面のベストマッチを目指すこととなる。海外へ留学中もしくは海外にいる学生に対してのオンライン授業の提供や、海外にいる教員にオンライン授業を実施してもらって単位を出すことなどの試みも進めていきたいと考えている。

△ 既に卒業要件の半分近くとなる60単位がオンライン授業で実施できることになっているので、そこを大きく変えていくことまでは今のところ考えていない。夜間主コースは放送大学の授業を活用して40単位程度は取得するということが標準的なスタイルとなっているので、そこについては多少踏み込むかも知れないが、やはり全体としてオンライン授業がメインになるという方向までは考えていない。先ほどの説明にあったように、オンライン授業の有効な部分というのは間違い無くあるので、そこを上手く使っていきたい。

2 次回日程（令和4年9月15日（木））

坂井学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員のご都合を伺いたい旨の連絡があった。

以上